

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 2 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 26 年 7 月 17 日 (2014.7.17)

【公表番号】特表 2011-521776 (P2011-521776A)  
 【公表日】平成 23 年 7 月 28 日 (2011.7.28)  
 【年通号数】公開・登録公報 2011-030  
 【出願番号】特願 2011-509698 (P2011-509698)  
 【国際特許分類】

B 0 5 D 7/24 (2006.01)  
 C 0 9 D 1/00 (2006.01)  
 C 0 9 D 183/02 (2006.01)  
 C 0 9 D 7/12 (2006.01)  
 C 0 9 D 5/00 (2006.01)

【 F I 】

B 0 5 D 7/24 3 0 3 B  
 C 0 9 D 1/00  
 C 0 9 D 183/02  
 C 0 9 D 7/12  
 C 0 9 D 5/00 Z  
 B 0 5 D 7/24 3 0 2 Y

【誤訳訂正書】  
 【提出日】平成 26 年 5 月 29 日 (2014.5.29)  
 【誤訳訂正 1】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0 0 4 9  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【 0 0 4 9 】

一旦コーティングされると、物品は典型的には再循環オープン内にて 20 ~ 150 の温度で乾燥される。不活性ガスが循環してもよい。乾燥プロセスを加速させるために更に温度を上げてよいが、基材への損傷を避けるために注意を払わなければならない。コーティング組成物を基材に適用し乾燥させた後、コーティングは、好ましくは約 60 ~ 95 重量% (より好ましくは約 70 ~ 92 重量%) のシリカナノ粒子 (典型的には集塊している)、約 0.1 ~ 20 重量% (より好ましくは約 10 ~ 25 重量%) のテトラアルコキシシラン、及び所望により約 0 ~ 5 重量% (より好ましくは約 0.5 ~ 2 重量%) の界面活性剤、及び最高約 5 重量% (好ましくは 0.1 ~ 2 重量%) の湿潤剤を含む。

【誤訳訂正 2】  
 【訂正対象書類名】特許請求の範囲  
 【訂正対象項目名】全文  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

基材にコーティングを提供する方法であって、  
 a) 0.5 ~ 99 重量% の水と、  
 b) 0.1 ~ 20 重量% の、40 nm 以下の平均粒径を有するシリカナノ粒子と、  
 c) 0 ~ 20 重量% の、50 nm 以上の平均粒径を有するシリカナノ粒子であって、b) 及び c) の合計が 0.1 ~ 20 重量% であるシリカナノ粒子と、

d) pHを5未満に低下させるのに十分な量の $< 3.5$ のpKaを有する酸と、

e) 0 ~ 20重量%のテトラアルコキシシランと、を含み

ここで、前記シリカナノ粒子の濃度が、コーティング組成物中0.1 ~ 20重量%である、

コーティング組成物を基材に接触させること、及び

前記組成物を乾燥させて、シリカナノ粒子コーティングを提供することを含み、

ここで、前記コーティングが、

a) 60 ~ 95重量%の集塊シリカナノ粒子と、

b) 0.1 ~ 20重量%のテトラアルコキシシランと、

c) 0 ~ 5重量%の界面活性剤を含むか、又は含まず、

d) 0 ~ 5重量%の湿潤剤と、

を含む、

方法。

【請求項2】

前記基材が、コーティング後50°未満の静的水接触角を有する、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

基材と、その上に40ナノメートル以下の平均粒径を有するシリカナノ粒子の粒塊のコーティングとを含む、請求項1の方法により形成されたコーティングされた物品であって、前記粒塊が、シリカナノ粒子の三次元多孔質ネットワークを含み、前記シリカナノ粒子が隣接するシリカナノ粒子に結合している、物品。

【請求項4】

前記コーティングが500 ~ 2500の厚さである、請求項3に記載のコーティングされた物品。

【請求項5】

前記基材が透明であり、また、

400 ~ 700 nmの波長範囲における垂直入射光線の透過率が、コーティングされていない基材に対して増加する、請求項3に記載のコーティングされた物品。